

1. 教育活動を通じて「自ら考え、判断し、行動することのできる若者」を育てる。

行事が活発になり、コンテストで発表する場があることで、自分から考えて行動する機会が増えるのは素晴らしい。また、学校行事の実行委員や対策委員等、全員が役割を担うことで自主性を育て、主体的に行動できるようにしている学校もある。特定の生徒がリーダーシップをとるのではなく、全員がリーダーとなり、協力者となる状況が望ましい。

「何を与える」ではなく、自分でやりたいこと、やらなければならないことを見つけることを手伝うのが学校であり、これが自ら考えることにつながる。

2. 多様な進路目標の実現に向けて努力する。

SLCの利用者が増えれば、自然と自習する生徒も増えることが期待できる。その気になった生徒が利用できなくて意欲を削がれることが無いよう、施設・スタッフの充実を求めたい。学習習慣の定着は本人の意欲が最も大事。意欲をかきたてるきっかけを数多く設けたい。検定試験の資格取得、様々なコンテストへの応募、他大学見学、ボランティア参加等、刺激を受ける機会を紹介し勧めて欲しい。

また、獨協埼玉高校は他校に比べて大学との連携機会が少ないのではという疑問が浮上。系列大学の有無に関わらず様々な大学と接点を持つべきで、今ならかなり多くの大学が高校側の意見に耳を傾けてくれるはず。その際も多様な分野を揃えることが効果的。

3. 学校生活の安全性と快適性を向上させるとともに、安心・安全な学校づくりを進める。

「安全」に関しては主に学校の管理体制の問題。AEDなど新しい取り組みもあり前進傾向。SNSや登下校問題は中学校同様。また、4にも関わるが、生徒たちに広報活動をしてもらうことで、他人から見られていることを意識するようになれば、マナーが良くなることも期待できる。

4. 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を進める。

卒業生は学校にとって大きな財産。ホームカミングデーやイベント参加の機会は可能な限り増やした方がいい。地域連携の一つとして最寄り駅に作品展示などをする学校が幾つかある。また、卒業生や卒業生保護者のネットワークを活用し、「いまの獨協埼玉」をアピールし、応援してもらう。活躍している卒業生に話してもらうことで在校生ばかりでなく外部にも伝えていくことが学校の魅力をアピールすることになるのではないか。

様々な企業や大学が高校生向けに行っているコンテストを掲示等で紹介し、他流試合に積極的な参加を促す。入賞すれば教育活動の成果のアピールになるし、受賞できなくても良い経験になる。獨協コース卒業論文の作成で扱っているテーマで応募するのも良いのでは。

入試問題で使用された作品の作者から、入試で取り上げられたことを自身の SNS で発信して良いか、という問い合わせがあった。作者の支持者にアピールできる機会にもなる。作者と出題者とで対談したものを HP や媒体に掲載すれば相乗効果も期待できる。積極的に活用すべきではないか。